

(1)児童の体力の現状

○体を動かして遊ぶことが好きな児童が多く、校庭でボール遊びやおにごっこ、一輪車などを行っている児童がとても多い。また、冬場には、短なわや長なわとびをして体を動かし、いろいろな技の習得をめざして熱心に取り組んでいる。

●平成30年度は学校全体としてみると、県平均を上回っている種目が(8種目×男女×6学年＝96のうち)「29」であった。平成29年度は「32」であり、前年度よりも「3」減少した。

〈種目別〉

○半数以上の学年で県平均を上回っていた種目は【男子】握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび【女子】握力、上体起こし、長座体前屈であった。

●半数より多くの学年で県平均を下回っていた種目のうち、【男子】50m走、立ち幅跳び、ソフトボール投げ【女子】シャトルラン、50m走、立ち幅跳び、ソフトボール投げの種目は、上回っている学年が1つもなく、これらの種目の向上が課題である。

〈学年別〉

○半数以上の種目で県平均を上回っていた学年は【男子】3年と5年【女子】1年であった。

●半数より多くの種目で県平均を下回っていた学年のうち、【男子】4年と6年【女子】3年と5年は、上回っている種目が1つのみだった。

(2)30年度の具体目標の達成状況と課題

○「授業の中で運動量を確保することで児童の体力作りを行っていき、新体力テストにおいて各学年で4種目は県平均を上回るようにする」という目標を達成できた学年は3年男子、5年男子、1年女子であった。

○研究大会の研究校として、全学年で研究授業や実技研修を行ったことを引き継ぎ、それぞれの学年部で共通理解を図った。学習の場作りや流れのパターン化など、子ども達の運動量を十分に確保することができた授業作りが十分になされていた。

○母衣小の授業の進め方の基本である「母衣小スタイル」により、前時の振り返り、授業の流れを示す、流れを一定にしてそれを繰り返す、自分のペースで学習できる選択の場をつくる、教具を子ども達に合わせて準備する、間違いや失敗を受け止めるなどを行い、児童が安心して運動をすることができた。

○陸上大会や器械運動発表会の練習には全職員で指導した。全校で高学年の子ども達を育てていこうとすることができた。

●「体づくりチャレンジカード」を作成し、全校児童に配付したが、配付した後はそれぞれの学年や学級、個人の取り組みに任せており、外遊びやなわとびを十分に奨励したとはいえない。

●「母衣っ子体操」という学級朝礼に行っている体づくり運動(腕支持や片足立ちなど)の徹底が十分になされなかった。

(3)31年度の取組【対策】

①学校における取組

- ・「体づくりチャレンジカード」では、決められた技ができた人数を掲示したり、休み時間に披露したりする場を設けていく。
- ・「母衣っ子体操」については、学年・学級により取り組みに差がある。年度初めに、取り組みが徹底されるよう確認する。
- ・小中一貫教育の【すこやか部】の取組として、小学校卒業までに「泳力」「逆上がり」「投げる力」の技能向上を目指す。

②地域や家庭との連携による取組

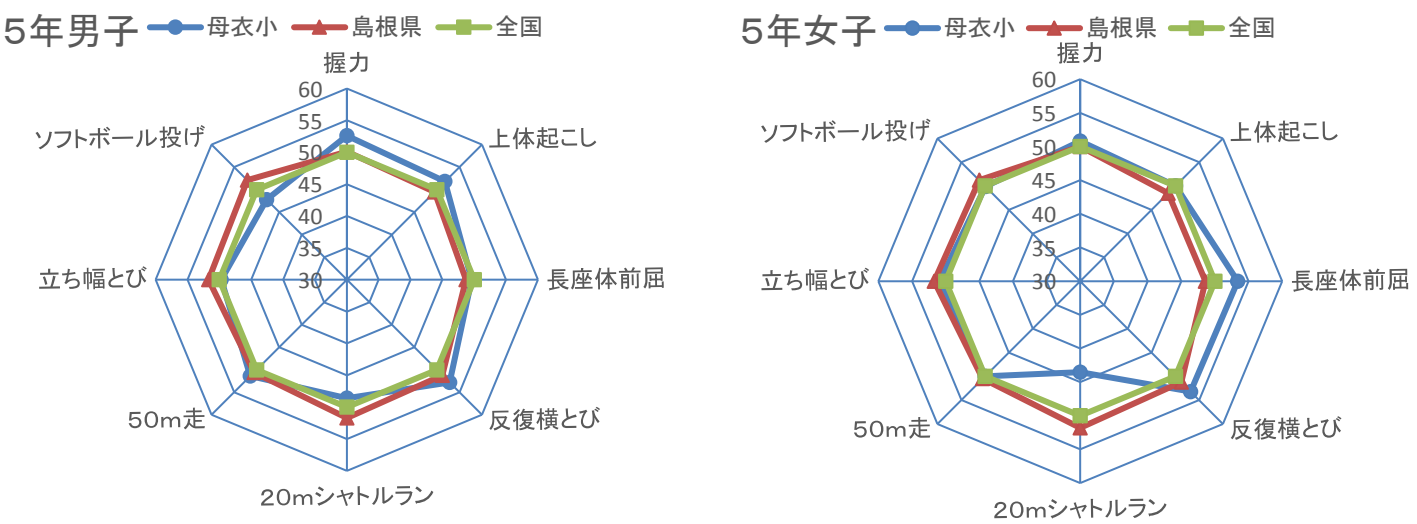
- ・校庭の管理を地域とともにに行い、運動環境の整備を図るとともに、放課後子ども教室等に体育施設を積極的に開放し、運動する場を提供する。
- ・体育ファイルを保護者にも見てもらうことで新体力テストや泳力、なわとびなどの伸びを感じ取ってもらうとともに、「体づくりチャレンジカード」等への取組や、体力向上への意欲付けを図る。
- ・学校保健委員会を開催し、児童の健康や生活習慣について研修を行う。

③体力向上をめざした生活習慣の確立、食育推進の取組

- ・メディアコントロールウィークに家庭と連携して取り組むことで児童の生活習慣を見直すようにする。
- ・「母衣っ子体操」を毎朝行い、学習に向かう体づくりを進める。
- ・日常の給食指導において、偏食や少食の児童が減るよう働きかける。

調査実施者数(人) 1年(男子49・女子55) 2年(男子30・女子39) 3年(男子37・女子42)
4年(男子29・女子37) 5年(男子35・女子53) 6年(男子35・女子37)

(4)5年生 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果(全国平均を50としたときの比較)



(5)全国体力・運動能力調査、運動習慣等調査 5年生意識調査の結果

(体力合計点との相関が指摘されているものや松江市教育委員会として注目しているものを挙げています)

